

次世代架線集材勉強会

〔資源活用課〕12月16日、次の世代に引き継ぐべき安全で効率的な架線集材技術の推進を図るため、「次世代架線集材勉強会」（主催 中部森林管理局、共催 長野林政協議会、後援 長野県）を中部森林管理局大会議室において開催し、満席となる146名（林業事業体及び長野県関係者94名を含む）が参加しました。現在、中部森林管理局では森林作業道と高性能林業機械を活用した作業システム（車両系作業システム）の拡大に努めているところですが、管内には急傾斜等の理由により架線集材（架線系作業システム）に頼らざるを得ない箇所も多くあり、架線技術者の育成を含めた安全で効率的な架線集材技術の推進が求められています。

今回の勉強会では、この点で同じ課題を持つ長野県と中部森林管理局が連携して、架線集材のトップランナーとも言える高知県及び和歌山県から、高知県立森林技術センター山崎敏彦チーフと、株式会社井碇林産 井碇啓次代表取締役社長を講師にお招きし、先進的な取組事例等について講演をしていただきました。勉強会の冒頭に奥田局長からは、森林資源の成熟、高性能林業機械の普及、大型製材工場及びバイオマス工場の建設状況等を踏まえ、林業再生に不可欠な生産性の向上に関係者が真正面から取り組むよう激励の挨拶がありました。また、中村森林整備部長より、林野庁の新規事業である「次世代架線系林業機械開発等生産性向上事業」等を中心に、林野庁が目指している架線集材システムの将来像についての説明がされました。続いて行われた講演の中で、高知県の山崎チーフからは、これからの架線集材のあり方について、高知県内で取り組まれている欧州製各種タワーダ及び高性能搬器に加え、高知県の代名詞ともいえるH型集材の使用事例等について説明があり、労働生産性の改善及び労働安全の確保を含め、実証データに基づいた大変参考になる話しをしていただきました。次に、和歌山県の井碇社長からは、先進的な取り組みである油圧集材機の開発経緯と使用状況、更には今後の改良点等について動画を交えて話しをしていただき、会場からはその操作性の良さに驚きの声が聞かれるなど、集材機の将来に夢が持てる講演内容でした。林業の成長産業化あるいは森林・林業の再生に不可欠な木材搬出の低コスト化の第一歩は生産性の向上です。

今後は、安全で効率的な架線系作業システムの推進を含め、生産性の向上に向けた具体的な計画を策定し、局署等が林業事業体と一体となり、その実現に向けた各種取り組みを行うこととしていますので、関係者各位のご協力をお願い致します。



勉強会の様子